

83会報

御立
まー

発行人 山東 昭子

編集人 松本 未男
(題字 山東昭子会長)

発行所 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11
TEL 03-6907-2537
FAX 03-6907-2915
福社財団ビル5F

第四十五回 聴覚障害児を育てた

お母さんをたたえる会

お祝いのことば

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会会長

山東 昭子



皆様お久しぶりでした。コロナ対応のため長らく開催できませんでした。「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」が、三年ぶりに開催出来ることになりました。こうして皆様と対面で会を開催できることを嬉しく思います。

本日は平成二十九年の第四十回大会から第四十二回会まで続けてご臨席を賜り、今回三年ぶりに秋篠宮佳子内親王殿下に再び御臨席を賜り、この会が開けますことを嬉しく思っています。

私は、今まで長らく本会の会長をつとめ、多くのお母様にお会いして御苦労話を伺いました。お母様方は、おそらく子ども達が小さい頃から全てのエネルギーを費やしてその成長をサポートして来られたと思います。今の成長した姿を見ると、あつという間でもあります。本当に長い長い年月だったと思います。今日は皆様と一緒に子ども達の成長を喜び、お母様達のご苦労をたたえる会です。

佳子内親王殿下のおことば



このたび、「第四十五回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」が開催され、皆様とお会いできましたことを、大変嬉しく思います。はじめに、本日三つの賞の表彰を受けられる方々に、心からお祝いを申し上げます。また、この会の開催のために力を尽くしてこられた方々、全国各地できえない子ども、きこえにくい子どもの教育に携わってこられた方々に、深く敬意を表します。

最初に、きこえない子ども、きこえにくい子どもを育てられた保護者の方々へ表彰がございます。受賞される皆様は、嬉しいことも、また大変なこともあります。中で、お子様に寄り添つてこられたことでしょ。お子様との信頼関係を大切にされながら、心を配り、とも歩んでこられたと想像しております。お子様に

とって皆様は、とても心強い存在であることだと思います。お子様が皆様とともに過ごしたかけがえのない時間と思い出は、これからもお子様を支え続けることでしょう。続いて、「桜内義雄賞」の表彰がございます。今回受賞される方は、教育者として、約三十年にわたり活躍してきました。きこえない子どもたちと保護者の方々に寄り添い続け、共に考えてこられたことを伺い、感銘を受けました。受賞者が以前にお書きになつた学校だよりを読ませていただいた際には、受賞者の子どもたちと保護者のことを思うあたたかいお気持ちが伝わつきました。この後のご講演を楽しみにしております。

そして、「第十七回全国聾学校作文コンクール」金賞受賞者が表彰されます。全国各地の小学生、中学生、高校生から、素晴らしい文章が寄せられました。私も、受賞作全てを読みました。ひとつひとつの作文から、作者が感じたこと、考えたことが伝わつてきて、どれも印象に残っています。

三つの賞の表彰を受けられる皆様、改めましておめでとうございます。皆様の今後のお幸せとご活躍をお祈りいたします。

終わりに、きこえないこと、きこえにくいことに対する社会全体の理解がさらに深まり、誰もが安心して暮らせる社会になることを、誰もがより幅広い選択肢を持つれる社会になることを、そしてこれらがあたりまえになることを願うとともに、この催しが皆様にとって大切な思い出になることを願い、私の挨拶といたします。

○ ○ お母さんの体験発表 ○ ○

佐賀県 古賀 純子



本日は、この様な栄えある場にお招きいただきました事は、この上ない喜びであり、名譽なことと存じます。大変僭越ではございますが、受賞

者を代表致しまして感謝と御礼を申し上げます。本日は誠にありがとうございました。さて、ここで私の息子のこと、子育てについて、少しお話しさせていただきます。

息子の郁哉の聴覚障害が分かったのは、1歳8か月でした。祖母が気付き、近くの耳鼻科から当時の佐賀医科大学（現在佐賀大学医学部付属病院）耳鼻咽喉科を紹介され、重度難聴の診断を受けました。

まさかうちの子が・・・みなさんも同じ経験をされたと思いますが、頭の中が真っ白になり、どうやつて帰宅したか記憶がありません。

周囲の勧めがあり、佐賀県立ろう学校乳幼児相談へと通う日々が始まりました。

初めてろう学校を訪問した日に、先生から「ここでは何でも話して下さいね。夫婦喧嘩の話でも良いですよ。」と言われ、障害を受け止められずにいた私は、その優しい言葉に涙が溢れて止まりませんでした。

息子の障害のことを考え泣いてばかりの日々、郁哉は一人で遊び笑っていました。聞こえない分の情報を自分で必死に得ようとしている。このままでは私はこの子の笑顔を奪ってしまう。私が泣いている場合じやない！先に進まなくては、と強く思いました。とはいえるが、聴覚障害に何の知識もない私にとって、ろう学校が唯一の支えでした。

当時のろう学校は、口話教育と手話教育の間で揺れている時期でした。補聴器を着けて言葉かけをしたり、絵日記を書いて一緒に言葉の勉強をしたりなど、口話の練習にも一生懸命取り組みました。聞こえが厳しい郁哉のために、学校では内容や気持ちを伝えようと、手話も使いながら指導をされていました。

その様子を見て、郁哉が大人になつた時に嬉しい事、悲しい事、困った事、何でも話せる関係でいたいとの思いから、手話サークルへも通うようになりました。夜、二歳児の郁哉を連れて通うのは大変でしたが、そこで大人の聴者の方々と出会い、交流出来た事は、私共親子にとって素晴らしい一步だつたに違いありません。

幼稚部では、仕事、家庭、学校、宿題と多忙な日々となりました。

仕事から帰ると郁哉は嬉しそうに今日の出来事を話してくれました。一緒にいる時間が少なかつので、限られた時間を使いコミュニケーションをとるよう心掛けました。

●第四十五回 聴覚障害児を育てた お母さんをたたえる会受賞者

十一、長野県 表彰者 6名	宮下たつ江様 春原喜美江様 関邦子様
十二、愛知県 表彰者 1名	岡部巨和子様
十三、兵庫県 表彰者 1名	一柳淳子様
十四、高知県 表彰者 1名	西森真理
十五、佐賀県 表彰者 2名	古賀純子様 大曲明子様
十六、熊本県 表彰者 1名	嶋形睦子様
十七、鹿児島県 表彰者 1名	渡邊加代子様
十八、宮崎県 表彰者 1名	宮間邦子様 佐藤清美様 坂庭千秋様
十九、福岡県 表彰者 2名	篠崎規子様 石井敏様 倉林百合子様
二十、群馬県 表彰者 6名	茨城県 表彰者 2名
二十一、栃木県 表彰者 4名	大内むづみ様 中山洋子様
二十二、埼玉県 表彰者 4名	埼玉県 表彰者 3名
二十三、東京都 表彰者 1名	中谷理枝様 神谷千加様 海東留美子様
二十四、神奈川県 表彰者 1名	橋本愛様 岩鍋敬子様
二十五、山梨県 表彰者 1名	田中小由美様

●第三十四回 全国聾学校合奏コンクール審査結果

金賞・文部科学大臣賞

東京都立大塚ろう学校 小学部六年
ミュージカル「ウエストサイド物語」より

銅賞

東京都立立川学園 小学部六年
「バイレーツ・オブ・カリビアン」

銅賞

東京都立大塚ろう学校 小学部五年
「映画『ニューシネマ・ラ・ダイス』」より
東京都立立川学園 小学部五年
「サウンド・オブ・ミュージック」

努力賞

筑波大学附属聴覚特別支援学校 小学部六年
「エーデルワイス」

審査員獎励賞

福島県立聴覚支援学校 小学部全
「きらきら星」

静岡県立静岡聴覚特別支援学校 中学部一年・二年
「絆～2022 燐きらめき～」

長野県長野ろう学校 中学部全
「波音」

京都府立聴学校 小学部全
「エーデルワイス」

岡山県立岡山聴学校 中学部二年・三年
「星の世界」

山口県立山口南総合支援学校 中学部全
「アメイジング・グレイス」

全国聴学校合奏コンクール第一次審査總評

審査委員長 尾崎正峰



二〇二二年も新型コロナウ

イルス感染拡大の波が幾度と

なく起り、さまざまな不安

を抱えながら日々の暮らしに

多くの制約がかかることが繰

り返されました。どなたも苦

労をされたと思いますが、参加のグループの中には感

染のためメンバーが全員そろわないと、大変かつ残

念な思いをされたことがあつたと伺いました。そうし

た困難な状況の中につれて、練習を積み重ねた生徒さ

んたち、ご指導に当たられた先生方、活動を支えられ

た保護者、関係者の方々、すべての努力の結晶として、

第一次審査を通過した十二グループすべての演奏の映像が第二次審査の場に届けられ、みんなの思いが詰

まつた演奏を聴くことができました。

金賞・文部科学大臣賞を獲得した東京都立大塚ろう学校小学部六年グループによる「ウエストサイド物語」は、より（マリア、アメリカ、トゥナイト、サムウェア）は、いくつもの演奏上の難所をクリアし、オーケストラ版

の『シンフォニック・ダンス』と同様の余情、余韻を感じさせるエンディングをはじめとする編曲の妙とも相まって、ミュージカルの各ナンバーが織りなす音楽の綾を堪能させてくれるものでした。銀賞の東京都立川学園小学部六年グループ、銅賞の東京都立大塚ろう学校小学部五年グループと東京都立立川学園小学部五年グループも甲乙付けがたいレベルの高い演奏を披露してくれました。そして、他の学校・グループの演奏も、メンバーみなが懸命に取り組み、それぞれの特徴と持ち味をよく表した素晴らしいものばかりでした。

昨年度の総評でもふれたことを繰り返せば、新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の困難に直面する中で、音楽を奏でることの価値をあらためて感じさせられました。ひとり一人が音楽に向き合い、音楽を通して自分（たち）らしさを表現すること、そのプロセスを仲間と共にすることを本コンクールはもつとも大事にしてきました。来年度も、こうした思いを共にした全国各地の学校・グループの参加、そして、それぞれの個性が輝く演奏に出会えることを審査委員一同願っています。

全国聴学校合奏コンクール



表彰式

つづいて、銀賞の立川学園の表彰式は三月十七日（金）に体育館で行われました。協会から専務理事が賞状を持参して行われました。子ども達は大きな刺激を受けたと思います。

令和四年十月一日から令和五年三月末日までの間に、当協会は、令和四年三月二十八日内閣府（内閣総理大臣）より税額控除に係る証明を受理しており、この度令和四年三月三十日から令和九年三月二十九日までの有効期間の延長が認められました。

令和四年十月一日から令和五年三月末日までの間に、次の皆様方よりご寄附をお寄せいただきました。誠に有難うございました。

（敬称略）

谷口昭子（毎月）、田中美郷、リオン株式会社、石川庄六、小川昭子、山勝彦、辻村哲夫、野崎正史、田村敦、藤本登、原田佳定、宮崎幸子、群馬県聴覚障害者親の会、東京ホールディングス、

ハマナス募金

当協会の事業は、公益財団法人JKA競輪公益資金の補助をはじめとして、皆様方からのご寄附（ハマナス募金）により実施しています。

皆様方のご理解とご支援に深く感謝しております。

今年度も計画事業の適正な実施に努めているところですが、昨今の社会情勢から事業資金の確保が大変厳しい状況にあります。つきましては、皆様方より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

